

立命館大学 政策科学部

知床の大自然の中で地域住民と繋がり、新しい気付きや価値観を得ることを目的とした実習



PLAN

9月9日～13日

- ☑ 4泊5日の長期型実習
- ☑ 文系学生
- ☑ 観光プログラムも含んだ実習



知床五湖トレッキング

ヒグマレクチャーを受講し、地上遊歩道を散策。自然の成り立ちから国立公園の制度まで幅広く学びました。知床五湖までの道中ではヒグマにも遭遇!



ウトロ地区の見学

オロンコ岩から広い海やウトロの街、漁港を見学。知床世界遺産センターでは知床半島の模型や動植物の展示などを通してさらに知床への知識を深めました。



開拓小屋コース散策

「しれとこ 100 平方メートル運動」の森づくりが学べるコースをスタッフの解説を聞きながら散策。開拓の歴史や現場スタッフの苦労などを聞きながら知床のもう一つの顔を学びました。



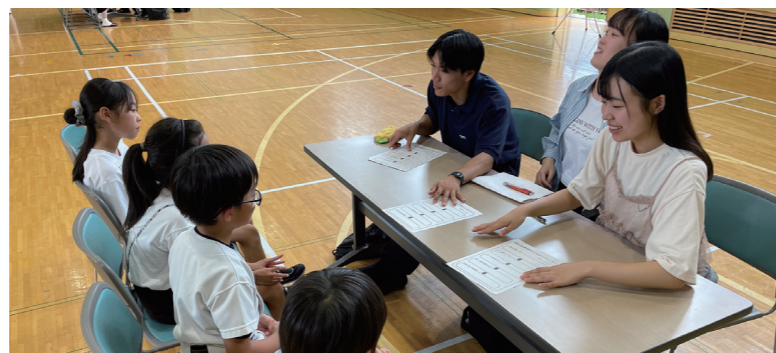
大学×民間ホテル ゴミ拾いとワークショップ

ウトロの民間ホテルとの共同プログラム。ヒグマとの共存について学びながらゴミ拾い活動をし、その後はオホーツク管内の学生と新しい観光コンテンツを考えるワークショップを行いました。



ウトロ学校での発表

ウトロにある小中学校に出向き、大学生の生活や、立命館大学の紹介、小中学生の時に取り組むべきだったことなど、大学生が各自考えてきたテーマをグループごとに発表しました。付近に大学が無いウトロに住む子どもたちにとって、大学生と話せる機会は貴重です。大学生との関わりを通して、子どもたちの将来の選択肢が増えるきっかけになっているかもしれません。



活動レポート

学生実習 For the Future of Shiretoko!

一次世代へ伝え、知床の未来へー 普及企画係 米田 紗衣

知床財団では、全国の小学校から大学までの実習受け入れを行っています。数時間程度の講演対応もあれば、学生たちが数日間知床に滞在し、知床財団が担う野生動物管理や調査研究、公園管理の現場研修を反映したプログラムを行うこともあります。今回の特集では 2024 年度に実施した 2 校の実習の様子をレポートします。

北海道大学 獣医学部

フィールドでの専門的な調査・研究を通して、新しい知見や調査技術を身につけることを目的とした実習



PLAN

9月25日～27日

- ☑ 2泊3日の中期型実習
- ☑ 理系学生
- ☑ 屋外でがっつりフィールド調査



詳しい調査の結果はこちらからご覧ください



調査研究の方法

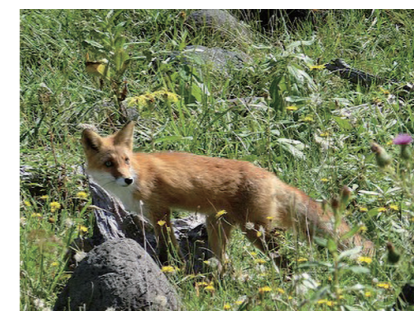
北海道大学 獣医学部の実習対応は 2000 年から始まりました。毎年、学生が自らテーマを設定し、テーマごとにチームに分かれてフィールド調査や研究を行います。今年は以下の 3 チームで調査を行いました。

Team ヒグマの食性と行動調査



ミズナラの豊凶調査、GPS を用いた痕跡調査、ヒグマの糞の内容物から季節変化や行動の差を調査しました。

Team 動物の感染症



キツネやヒグマなどの糞を用いて、エキノコックスをはじめとした人獣共通感染症の感染状況を調査しました。

Team 知床の植生調査



エゾシカによる採食圧が植物種の構成や外来種の生息状況に影響しているのかを調べました。

2024年度のヒグマ事情

2023年度、過去最高のヒグマ大量出沒を経験した知床。大量出沒年の翌年は、前年の駆除数増加などによりヒグマの個体数が減少するため、翌年はヒグマの出沒が減少してクマ対策スタッフは平穩を取り戻すというのが過去の傾向でしたが、2024年度は決して平穩とは言えませんでした。

2023年度以前の5年間（2018～2022年）で斜里町内におけるヒグマの目撃件数が1,000件を超えたのは2年間のみですが、2024年度は12月末時点でヒグマの目撃件数が1,085件となりました。またウトロ市街地におけるヒグマ出沒が15件発生した他、斜里市街地やその周辺でもヒグマ出沒が相次ぎました。

2024年度はハイマツ球果やミズナラ堅果の実りが良好でしたが、周期的に次の秋はミズナラの実成が悪いことが予想されることなどから、また忙しい1年になる予感がしています。

知床財団のスタッフは普段どんな仕事をしているの？
あまり知られていない日々の取り組みをご紹介します。



自動撮影カメラに写った市街地内のヒグマの様子



ヒグマ対応中のスタッフ

サケマス観察&遺跡を想うツアー in ルサ

『サケマス観察&遺跡を想うツアー in ルサ』は、ルサを訪れる方に知床の価値を伝え、その保全と利用に関心を持っていただくことを目的とした「シレコプロジェクト（羅臼町事業）」の一環です。

世界自然遺産エリアに流れるルサ川には、毎年カラフトマスやシロザケが産卵のため遡上します。また、ルサ川周辺には縄文時代の遺跡が点在しており、先住民の暮らしを知る貴重な場所でもあります。

今年は、ルサフィールドハウスでの事前レクチャー、サケマス観察や整備されたルサ遺跡への案内などを実施し、参加者から「貴重な体験ができた」と好評の声をいただきました。これからも、より深い知床の魅力を伝え続けていきたいと思っています。



のぞいてみよう！

知床での実習生活



数日間の実習の場合、共同宿泊施設に泊まることが多くあります。学校によっては炊事を当番制で行うことも。共同生活を通してコミュニケーション能力やチームワークを築けるのも実習の魅力の一つ。

また「コンビニまでの道でキツネを見たよ!」「外に出るときはヒグマに注意しようね」など、都会ではなかなか体験しがたい自然と隣接した暮らしは知床ならではの、学生たちにとっては貴重な体験です。

学生たちを見ていると、「知床」だからこそ、実習以外の場でも体感し、学べることが多いのではないかなと思います。

実際にきいてみた！

参加した学生の声



知床はただ美しいだけではなく、自然と人間の共存について深く考えさせられる場所だった。知床の自然は未来の世代に残すべき宝であり、そのために私たちに何が出来るかを考えるきっかけとなった。日常でも環境に配慮した行動を意識したい！



現地に足を運んだからこそ得られる学びや気づきがたくさんあった。また、知床で働き活躍する方々のパワーに感銘を受け、自分自身のキャリアの選択肢を拡げることが出来た。

学生実習のこれから

For the Future of Shiretoko!

学生と一緒に過ごしていて感じるのは、私たちが「教える立場」でありながら学生から多くのことを「教わる立場」でもあるということです。学生のキラキラした表情は知床というフィールドの素晴らしさを私たちに再認識させ、何事にも積極的に取り組む姿勢は私たちに元気やパワーを与えてくれます。

学生実習は、知床財団が培ってきた知見や経験を次世代に繋ぐことが出来る非常に有意義な場です。学生実習が学生たちの将来、そして知床の未来の一助になれるよう、今後も取り組み続けたいと思います。



知床財団の講師派遣、レクチャー対応についてはHPをご覧ください。

